

# 島内地区 ジモトで座談会

～市長と明日のまちを考えよう～

とき:2024年7月5日(金)19:00～

ところ:島内公民館視聴覚室

主催:松本市・松本市町会連合会

## 次 第

1 開会

2 あいさつ

3 趣旨説明

4 問題提起

- (1) 前回の振り返りと経過について
- (2) 島内地区防災モデル事業の成果について

5 懇談

- (1) 町会役員の担い手の確保について
- (2) 町会未加入者や新旧住民について
- (3) コロナ後の町会運営について
- (4) 地域交通について
- (5) 個人情報について

6 閉会

## この事業は…

地区の特徴や課題を基に、テーマを設定して、地区の代表者等の意見を市長がお聞きすると同時に、参加者とディスカッションをする地区別の広聴事業です。

松本市と松本市町会連合会が共催で実施します。

今回は、参加者お一人おひとりと時間内にディスカッションができることを前提に、定員を20人程度としています。

島内地区では20町会あるため、各町会の代表者を対象としました。

## 前回 市長とのこんだん会では…

日時：令和4年6月19日(日)13:30～15:15 場所：島内公民館視聴覚室  
参加者：防災モデル町会関係者、公民館活動関係者、松島中学生徒会合わせて23名  
テーマ：地域の人材育成をどう進めるか

### 1 懇談を行うにあたって提示した論点

話し合いが始まる前に、こんな話が出るのでは？として示したもの。

- ① 「人材育成」をどうとらえるか…どういう状態を目指すのか
- ② 活動を広げたり新たな人材に出会えるようにしたりするにはどうしたらよいか
- ③ 地域の「基盤」になるものは何か
- ④ 人材育成の上での行政の役割とは何か



## 2 話し合いの中で出された事項(抜粋)

- ・ **自分が居心地がよいと思える「活躍の場」「居場所」が多様にあることが要件の一つ。**人と人、人と活動が繋がることで、その活動を理解し、関わる人が増える。「楽しい」「わくわく」を体験できる場が多くあることで、様々な活動に出会えるチャンスも増える。
- ・ 自ら「**地域をよくしよう**」と思えるようにするには「**小さなグループ**」がたくさんあること、**そのグループに「出会う」ことが必要**。その人にとって「**関心のあること**」をどれだけ提供できるか。何か「**大事だ**」と思うことをやっていれば、人は寄ってきてくれる。
- ・ 「**活躍の場を広げる**」「**人と人とをつなげる**」「**活動に出会う**」という面で、「**公民館**」や「**主事**」はとても大事な存在。自分たちだけでは現在の活動の広がりには至らなかった。



- ・ 「**居心地が良い**」と思えると、「**こんなこともできる**」と気が付ける。安心と感じられるだけで可能性の広がり方が違う。知らなかった人でも知り合いになれば安心できる。そうした意味で**小グループの活動があること**と、「**居心地の良い**」と思える「**自分**」をつくること。それが、**公民館があることで実現できている**。

- ・ モデル町会では、防災モデル事業の中で「命を守る」を切り口に人と人をつなげようとした。「**組長**」どうしをつなげ、**組内での関係性を高めよう**とした。また、ワークショップを行って**参加する役員の主体性を引き出そう**とした。「公民館」と「町会」では、必ずしも同じレベルでは語れないが、「**小さいグループをたくさんつくる**」とか「**小グループの連携を図る(出会えるようにする)**」といった面は一緒。
- ・ 10数世帯ぐらいしかない町会は、町会の中も町会どうしもお互いに助け合わないと何もできない。近隣での支援体制(計画)づくりに、専門職にも入ってもらったとことで中身が充実した。専門職側にも災害時の対応を地域と一緒に検討することで、平時から地域とつながっておくことの有効性を伝えることができた。
- ・ **行事の企画や運営を実際に経験**することで「人材育成」ができる。コロナ禍で2年「人材育成の場」が中断されている。
- ・ 前年度のHUG体験等を通じて、**事前の準備の大事さが分かった。近所にいる人を知っておけば対応が早い。中学生でもできることはある。**災害のことを全校で意識してもらうために、過去の災害に学び、自分の身の周り、近所の状況なども把握しておきたい。
- ・ 生徒や先生だけではなく、コミュニティスクールや避難所運営委員会、松本大学の学生など多様な方々が関わって、地域へ「帰ってきたい」と思える子どもたちを育てたいという思いで関わっている。地区からすると「**子どもたちのために**」という気持ちを多くの人と共有して関われる状況にすることが、「**地域の人材育成**」になる。

### 3 市長からのコメント(抜粋)

- ・ **地区をより良くしていきたいと思っている人たちに対して、興味関心があることを提供できれば、「活躍の場」ができる。「楽しい」「ワクワクする」ことを(地域づくりセンターや公民館が)どう提供し、コーディネートできるかで関わる人を増やすことができるか。**
- ・ 公民館にはハード・建物の面と、ソフト・活動の面の両方がある。今まで取り組みを受け継いで創り上げている。活動を若い人にも興味・関心に沿って作っていくことは必要。
- ・ 町会はどちらかといえば義務的なところを引き受け、公民館は前向きな方向に向いていけるか、というところだと思う。市として人材育成のロードマップが必要という話もあったが**市としては「若い人も参加する町会活動」という目指す姿を掲げている。**どのようにすればそれに近づいていけるかは地域によって異なる。小さい町会は町会どうし協力しあうことが大事だし、エリアを広げて考える必要もある。**規模のメリットを生かすという面と、小さいグループを大事にして積み上げるという両方を意識する必要がある。**
- ・ 地域の人材と言ったときに、中学生には今まで「レギュラー」には入っていなかった。今後は**レギュラーメンバーになってもらうほうが中学生にとっても、地域にとっても良いのではないか。**中学校は避難所にもなっており、よく知っていることからしても支える側として任せられるのではないか。
- ・ 様々な取り組みをしている中で、35地区の普遍的な課題でもある「地域人材の育成」について解決に向けた視点を示してもらった。少しでも改善していく上での参考にしたい。

## まとめ…

- ・ 自分が居心地がよいと思える、「活躍の場」「居場所」が多様にあることが人材育成の要件の一つ
- ・ 自ら「地域をよくしよう」と思えるようにするには「小さなグループ」がたくさんあり、そのグループに「出会える」ことが必要で、公民館はそうした役割を担ってきた。
- ・ 防災モデルのモデル町会では、ワークショップを行って参加する役員の主体性を引き出そうとした。隣組を単位として「組長」どうしをつなげ、組内での関係性を高めようとした。(隣組を活用して)「小さいグループをたくさんつくる」とか「小グループの連携を図る(出会えるようにする)」といった面は共通している。
- ・ 行事の企画や運営を実際に経験することで「人材育成」が自然に行われてきた。
- ・ 「子どもたちのために」という気持ちを多くの人と共有して、子どもたちに関われる状況にすることが、「地域の人材育成」になる。
- ・ 地区をより良くしていきたいと思っている人たちに対して、興味関心があることを提供できれば、「活躍の場」に関わる人を増やすことができる。
- ・ 中学生を地域人材として活躍できようにする。それが中学生のためにも地域のためにもなる。

昨年度の「河西部ブロック町会長懇談会」では…

日 時:令和5年11月28日(火)10:00～12:00 場所:島内公民館講堂  
参加者:河西部ブロック各地区町会連合会三役ほか37名  
テーマ:元気な町会活動にするために ～「防災」を切り口に考えてみよう～  
内 容:町会の防災活動に係る発表、グループ別意見交換など

1 グループ別意見交換を行う際に示した論点

| 課題                                                                                                                                        | 方策                                                                                                                    | 「防災」を切り口とした「仮説」                                                                                                                                                           |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"><li>・町会加入率の低下</li><li>・町会への関心の希薄化</li><li>・役員のなり手不足</li><li>・市からの依頼が多い</li><li>・負担ばかりで「お得」がない</li></ul> | <ul style="list-style-type: none"><li>・魅力的な町会活動の展開</li><li>・町会の役わりや必要性への理解の推進</li><li>・町会加入のメリット、インセンティブづくり</li></ul> | <ul style="list-style-type: none"><li>・隣組を活性化させることが有効なのではないか</li><li>・組長会などでの声の拾い方や、疑問・意見の取り上げ方、反映のさせ方が影響するのでは？</li><li>・参画意識を高めるためには、日ごろの活動の積み重ねが土台をつくるのではないか？</li></ul> |

## グループの意見交換で出された意見(抜粋)

### 町会活動に対する理解など

- ・ コミュニケーションが薄れている。話し合いの場を設けることが必要
- ・ 町会の役割や必要性を皆さんに理解してもらわなければいけない。それを防災などを使って理解を進めるにはどうすればいいか具体策があればお聞きしたい。訓練は町会の一つの存在意義を示すチャンスではある。決まった人しか来ないので、それを打破してみんなに来てもらうようにするにはどうしたらいいか。今やっていることを続けるとじり貧になってしまうので、どこかを変えなければ。変えるためにどうしたらいいか。
- ・ 昔は皆さんが当然やるべきものと思っていたのが、ここへきてそんなものやらなくてもいいという人が出てきた。

### 人材の確保

- ・ 本当はやろうとすればできるのに、できないという方が結構いそうな気がする。そういう人をいかに掘り起こしていくか。
- ・ つながっている仲間でやっていくしかないかなと感じている。
- ・ 昔は名誉職だったが、今は引き受けてくれる人がいない。年齢で(順番に)やっているが、だんだん(役員の年齢が)下がってきた。役員をお願いすると脱退すると言われる。
- ・ 若い人が入ってくると活発になる部分もある。

## 町会加入のメリット

- ・ メリットが無ければ町会へは加入しない。まず、その考えが間違い
- ・ 町会に加入には、**何らかのメリットが無ければ入ってくれないのが現状**。防災（災害時の助け合い）のことを説明しても納得していただけない。
- ・ 効率化はいいことだが顔を合わせなくなって誰だかわからない。**町会活動は楽しいというところを見せないと入ってくる人がいない**と思う。
- ・ ごみを出させてほしいから町会費は収めるけれど、後は町会にはノータッチ。何かやると役員が回ってくるので、お金だけ払うという人もいる。

## 会議の効率化

- ・ 会議はそぎ落として効率化している。一方で**顔を合わせる機会が減った。そこをどうバランスをとっていったらいいのか。会議が減ってやり手が増えるかどうか。**

## 個人情報

- ・ （個人情報の取り扱いが難しいのは）確かにその通りだが、それを言い始めると活動ができなくなる。できるだけ**小さい単位、組単位で情報共有しないと他人事になってしまう**。活動するにあたり、町会全体ではなく、まずは組単位で常会へ広げた。本当に組長でできるか心配だったが、若い常会長も頑張って（情報集約して）くれている。

## コロナ禍を経ての町会イベントの減少

- ・ コロナで(町会の)イベントが減った。回復してもそのまま(復活しない)。
- ・ コロナで町会のイベントは減った。それは不要不急だった。だが、**お年寄りが出かけなくなって、足腰が弱り介護のお世話になるのが早まったり転倒しやすくなる。やらなかったことによる影響がじわじわ出てくるのが心配。**高齢者以外で不要不急と判断されてやらなかったことをもう一回やろうとしても元気が出ない。
- ・ やろうとすると役員の負担が多くなる。**福祉(の事業)は減らしてはいけないと思う。**出前ふれ健など福祉の関係はしっかりやっていきたい。
- ・ 福祉の関係は復活してやっている。



町会長会では…

5月例会において「地域広聴事業の開催に伴う町会アンケート」  
配布し、

6月に集約(別添資料)、役員会で議論の方向性を検討しました。

今回の資料には、

Q1:町会や地区の課題

Q2:Q1に関して取り組んでいること  
について掲載しています。P10以降

地域広聴事業の開催に伴う町会長アンケート  
「ジモトで座談会」の当日進行に役立てるため、以下のアンケートにご回答ください。  
可能な限り、貴町会の役員などと意見交換をしていただき、まとめていただいたものをご提出いただ  
けるとありがたいです

Q1: 普段、お住いの町会や島内地区において、どのようなことが課題だと思われますか？

この中で意見のあった  
(1) 町会役員の担い手の確保について  
(2) 町会未加入者や新旧住民について  
(3) コロナ後の町会運営について  
(4) 地域交通について  
(5) 個人情報について  
を懇談項目としました。

Q2:Q1 に関して、町会や地区で取り組まれていること、内容、取り組むうえでの課題等につ  
いて簡単に記してください。

# 島内地区防災モデル事業の成果について

# 島内地区防災モデル事業 令和5年度の実施計画と実施内容

15

モデル町会

|       | 対象                   | 取組み項目               | 実施計画                                                           | 実施内容                                                                              |
|-------|----------------------|---------------------|----------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------|
| モデル町会 | 高松                   | 先行常会の取組みの横展開        | 地区として町会役員への「防災」を切り口とした「ヒアリング」を活かしながら取り組みを進める。                  | 3常会の役員で話し合いを行い、今年度の「防災活動の行動計画」を作成し、実行委員会スタッフが支援、各常会とも世帯・要支援者情報を把握し、安否確認や避難支援体制を構築 |
|       | 島高松                  | 全常会での「隣組避難行動計画」の作成  | 3年間の3年目。全常会・全隣組での話し合いによる「避難行動計画」の作成を目指す。新組長への引継ぎ、町会未加入者への対応が課題 | 対象2・4常会で隣組ごとに「安否確認・避難行動計画」を作成し、11月の訓練にて検証                                         |
|       | 北中                   | 訓練実施による「避難行動計画」の検証  | 昨年度隣組と町会でそれぞれ作成した「安否確認・避難行動計画」を訓練の実施によって検証する。                  | 昨年度策定した計画に沿った訓練を12月17日に実施                                                         |
|       | 松島                   | 「個別避難計画」の作成推進と事業所連携 | 隣組長の会議などを通じて「個別避難計画」の充実を図りたい。また、介護保険事業所との連携も進めたい。              | 島高松方式による隣組単位での話し合いを中心に防災活動を再構築                                                    |
|       | 平瀬川<br>東・下田・犬飼<br>新田 | 「個別避難計画」の更新と支え合いマップ | 1年目に個別避難計画と支えあいマップ等を作成した。訓練や訪問なども通じて情報の更新を図りたい。                | 要支援者情報の更新及び、安否確認・避難所運営訓練を実施(2/24(土))                                              |

# 島内地区防災モデル事業 令和5年度の実施計画と実施内容

16

|    | 対象           | 取組み項目                       | 実施計画                                                                          | 実施内容                                                                                                                                                  |
|----|--------------|-----------------------------|-------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 地区 | 松島<br>中学校    | 防災学習カリ<br>キュラムの検<br>証       | 前年度までの取組みを大事にして<br>いきたい。大きく内容を変えず、実施<br>と検証を通じて令和6年度に引き継<br>いでいければよい。         | 松本大学生による「事前学習」(1年生対象)と、防災<br>士による「危険予知学習」のプログラム(1・2年生対<br>象)を実施<br>防災士など人材確保が課題                                                                       |
|    | 島内<br>小学校    | 総合の時間の<br>学習プログラ<br>ムづくり    | 総合の時間で学習活動をした5年<br>4組はそのまま6年生に進級しており、<br>継続希望。「地域とのつながり」「生き<br>るための自立と協調」がテーマ | 学習活動としては、6月の「防災食づくり」の1回の<br>み。防災フェスには修学旅行前のため不参加                                                                                                      |
|    | 介護保険<br>事業所  | 地域と連携し<br>たBCPの作成           | 「災害時」を想定した「日ごろから<br>の」地域との連携を具体化するため<br>の検討をモデル的に事業所と所在町<br>会で実施する。           | 新橋(ハーモニー・ラクシア)と南中(ほっとハウス)<br>は災害時を見据えて連携事業(合同訓練・施設見学・<br>事業への招待等)を実施<br>「福祉避難所への直接避難」のための仕組み(最重<br>度者の抽出・個別避難計画作成の同意・ケアマネ等<br>への聞き取り・トリアージシートの作成等)を構築 |
|    | 地区人材<br>防災部等 | 防災部に対す<br>る「学習プログ<br>ラム」づくり | 1年で交代してしまう「防災部」員に<br>対して、「防災」にかかわる開会を提<br>供し、「防災士」人材の掘り起こしを<br>目指す。           | 防災部に対しては総会での報告と「防災モデル事業<br>報告会」への出席依頼<br>地区内の災士などと協同して「防災フェスティバル<br>を実施し、「防災」でのネットワークを構築                                                              |

## 防災モデル事業報告会(3月28日(木)開催)で示された「成果」①

### モデル町会等での成果

#### 【町会運営の視点】

- ・ **成果の見える化や情報提供・情報発信が町会運営にとって大事であることが再認識された。**
- ・ **単にトップダウンではなく、町会役員と構成員の双方向のコミュニケーションが必要であることが認識された。**
- ・ **隣組や常会など、小さい単位での活動構築が有効であり、構成員の「我が事」にしやすいことが分かった。**
- ・ **隣組内で「防災」を切り口としたコミュニケーションづくりが進んだ。その結果、どのような人が住んでいるか、といった情報把握や情報共有が組内で進んだ。**

### 課題（報告会以外も含む）

- ・ 町会未加入者やアパート住民の扱いについて、町会が支援することに関しての共通理解はまだ得られていない。
- ・ 隣組長の引継ぎがどこまで担保され、組内の話し合いの重要性までが引き継がれていくかは未知数
- ・ 人的資源の掘り起こし

# 防災モデル事業報告会(3月28日(木)開催)で出された「成果」②

## モデル町会等での成果

## 課題（報告会以外も含む）

### 【防災の視点】

- ・ 隣組単位での災害時の「**安否確認・避難行動計画**」の作成が進んだ。その結果、**要配慮者への対応策の構築**ができた。また、安否確認や要配慮者への避難支援といった意識の浸透が図れた。
- ・ 避難行動要支援者名簿登載者の安否確認を、町会の安否確認情報とどのように突合させるかについて、町会の常会長を活用するのが有効であることについて方向性が示された。
- ・ 「**我が事**」とするためのネタとして「**防災**」の切り口が有効であることが示せた。
- ・ 大規模地震の際など、**安否確認や避難支援**といった具体的なイメージを各人が持ち、話し合いによって共有することができた。
- ・ 自主防災組織と避難所運営委員会の整合性を図ることについて示唆が得られた。

- ・ 「安否確認・避難行動計画」を作成するうえで、昼間と、夜間・土日の区別の意味が浸透しきれていなかった。
- ・ その結果、昼間の災害について、実際の避難支援体制について検討した例が少なく、実態が把握しきれていない場合がある。
- ・ 避難所運営委員会は複数の町会で運営されるため、自主防災組織の運営委員会への整合は、単独町会だけで解決しない。そのため、自主防災組織の育成と避難所運営委員会の設置の整合が結局課題となる。

# 防災モデル事業成果まとめ

- ・ トップダウンではなく、住民と役員との双方向コミュニケーションや、決定した事項などの情報を「知ってもらう」営みは大事
- ・ 常会や隣組といった小さい単位で「話し合いの場」を持つことは自治組織を活性化するうえで大事。その際、「防災」をネタにすることは「我が事」にするうえでも有効
- ・ 大規模地震の際の安否確認や避難支援といった具体的なイメージを、話し合いで共有する営みによって「我が事」に落とし込めた。
- ・ 地区が町会を支援するための仕組みとして、人材育成し、町会にお還しするという考え方や仕組みが必要ではないか。例えば「防災部」など



## 5 懇談

- (1) 町会役員の担い手の確保について
- (2) 町会未加入者や新旧住民について
- (3) コロナ後の町会運営について
- (4) 地域交通について
- (5) 個人情報について

ただし、すべての項目について話ができるとは限りません。

なお、多くの方からご発言いただくため、恐れ入りますがご発言は手短かにお願いいたします。

ご発言される場合は、挙手の上、町会とお名前をいただいてからお話してください。

| 役 員 名           | 氏 名 | 住 所 | 電話番号 |
|-----------------|-----|-----|------|
| 町 会 長           |     | 島内  | —    |
| 副 町 会 長         |     | 島内  | —    |
| 〃               |     | 島内  | —    |
| 〃               |     | 島内  | —    |
| 町 会 会 計         |     | 島内  | —    |
| 町 内 公 民 館 長     |     | 島内  | —    |
| 町 内 副 公 民 館 長   |     | 島内  | —    |
| 土 木 委 員         |     | 島内  | —    |
| 環境衛生協議会部長       |     | 島内  | —    |
| 安 協 支 部 分 会 長   |     | 島内  | —    |
| 安 協 婦 人 部 分 会 長 |     | 島内  | —    |
| 健康づくり推進員理事      |     | 島内  | —    |
| 体 協 町 会 班 長     |     | 島内  | —    |
| 子ども育成会部長        |     | 島内  | —    |
| 防 災 部 理 事       |     | 島内  | —    |
| 防 災 女 性 部 班 長   |     | 島内  | —    |
| 防 犯 指 導 員 班 長   |     | 島内  | —    |
| 防 犯 女 性 部 理 事   |     | 島内  | —    |
|                 |     |     |      |